

水戸市中心市街地活性化協議会『定時総会』『研修会』報告書

【日 時】 令和元年6月14日(月) 午後1時30分～午後3時 【定時総会】
午後3時 ～午後3時40分 【研 修 会】

【場 所】 水戸商工会議所 第1会議室

【出席者】 会員10人 オブザーバー3人 傍聴者22人

【議長】 大久保 博之 会長

【報告事項】 (1) まちづくり会社について
(2) 各専門部会の進捗状況(協議会提案事項の実現に向けた検討)について
(3) 「平成30年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告」における平成30年度の取組等に対する意見について

【審議事項】 ・議案第1号 平成30年度事業報告承認の件
・議案第2号 平成30年度収支決算承認の件
・議案第3号 令和元年度事業計画決定の件
・議案第4号 令和元年度収支予算決定の件

【報告者】 水戸市中心市街地活性化協議会 事務局(水戸商工会議所 産業振興課内)

令和元年度水戸市中心市街地活性化協議会『定時総会』を開催した。
開かれた協議会とするために運営委員会と部会のメンバーが傍聴。

1. あいさつ 大久保 博之 会長
規約により大久保会長を議長に協議に入った。

2. 報 告 事 項

(1) まちづくり会社について

・資料に基づき(株)まちみとラボの代表取締役を務める三上副会長から説明。

○リノベーション事業

・2017年、2018年に「水戸まちなかビジネスプランコンテスト」を開催。

・優秀賞を受賞したスナックちよ子、YOCICOTAN カフェ、ONEKEY(個人事業)の3店舗について、改修費等の支援のほか、不動産マッチングや行政等各種支援制度の活用支援等により、プラン提案者と連携して事業を具体化した。

・南町2丁目のアットワークビルの空き室を若い单身男性向けのインダストリアルデザインにリノベーションし、新たなまちなか居住を推進した。

・水戸商工会議所と連携し、釜神町アパートの活用を検討している。

○インキュベーション事業

・(株)まちみとラボが管理するM-WORK 地下フロアの一角を、「POP UP! SHOP」(チャレンジショップスペース)としての活用を図っていく。

○マルシェの実験事業

・第3回ガングット(8月24日～26日)、第4回ガングット(3月23日～24日)を開催し、いずれも4,000人を超える来場者で賑わった。

○空き店舗対策事業

・会議所主催の水戸まちなか空き店舗見学プレツアー(9月17日)に続き、会議所と共催で第1

回水戸まちなか空き店舗見学ツアー（12月9日）を南町周辺で開催した。

- ・参加者30名、1件の成約があった。

○クリエイティブ起業家支援事業

- ・まちで起業スクールプレ企画 まちであそぶクロストーク（3月30日）を開催。
- ・ゲストは(株)ビルスタジオ代表取締役の塩田 大成氏とBHIS 主宰建築家のアサノコウタ氏。

○プロモーション事業

- ・TRIX MAG. ホームページの運営およびタブロイド紙の発行し、プロモーションを図った。
- ・M-WORK の運営に係るPRや、地下に予定する「POP UP! SHOP」への入居者募集フライヤー等を作成し、施設の自立運営のためのPRを図った。
- ・商店会連合会の大橋会長が手がける「中心商店街マップ」や水戸公衆放送などの事業が、後継者がいないことにより途絶えてしまう可能性もあるので、(株)まちみとラボが引き継いでいくことも検討していきたい。

○都市再生推進法人

- ・11月に水戸市から都市再生推進法人の指定を受けた。
- ・まちづくりの担い手として公的な位置付けが付与されたことにより国の支援が受けやすくなり、事業展開の幅も広がる。

○民間まちづくり活動促進・普及啓発事業

- ・国土交通省が実施する民間主体によるまちづくり活動を支援する「民間まちづくり活動促進・普及啓発事業」の実施事業者に選定された。
- ・空き店舗対策、地域の担い手育成、裏通りの活性化、リノベーション事業などをパッケージ化し、事業の検討をしていく。

○まちで起業SCHOOL

- ・まちなかマルシェ「ガングット」を核に、さまざまな事業を総合的にプロデュースし、M-WORKなどと連携しながら戦略的なプロモーションを実施していく。
- ・例えば、遊休不動産の紹介、まち歩き、講演会、ビジネスプランコンテスト、事業の具体化に向けたオリエンテーション、これらを相互に連携させ統合・開催する。

(2) 各専門部会の進捗状況（協議会提案事項の実現に向けた検討）について

【プロモーション部会】

○水戸クリエイティブウィーク

- ・9/8～9/24 にあおぞらクラフトいち、野外上映会、仲通り万博をはじめとする45のイベントを実施した。

○Mito kawaii project 「Halloween Party mitOPA

- ・10/28に水戸駅南口ペDESTリアンデッキ、水戸市中心市街地各協力店でハロウィンイベントを開催し、1,000人以上の来場があった。

○まちなか学生サポーターC`s

- ・散策イベント「まちなか回遊記」の開催、南町ハロウィンイベントへの協力、商店会感謝フェスティバルへの出店、第2回みとまちなかインスタグランプリの開催、まちなかマップの作成を実施した。

○ジュニアエコノミーカレッジ in みと

- ・小学5・6年生を対象に、模擬株式会社を設立し、商売体験を実施。16チーム80名が参加。
- ・水戸まちなかフェスティバルの中止に伴い、11/17、11/18の水戸市産業祭で販売体験を実施。

○アペリティフ 3 6 5 in 水戸 2018

- ・9/30 にホテル・ザ・ウエストヒルズ「リチェッタ」で、アペリティフを体験する特別セミナーを開催した

○ラ・フォル・ジェルネ・オ・ミト

- ・7/21 に五代山不動院（六本木）でヴィオラ奏者・ティモシー・リダウト氏のコンサートを視察。
- ・引き続きまちなかコンサートの開催を検討中。

【デザイン部会】

- ・デザイン部会・高野部会説明。
- ・優先度の高い、まちなかの保育所設置事業と水府提灯ロマンティックス事業に絞り進めている。

○まちなかの保育所設置事業

- ・内閣府企業主導型保育事業を活用して、部会員の柏氏が9月から「かしわノ木備前町保育園」をオープン。
- ・6月に定員19名に達する見込み。

○水府提灯ロマンティックス事業

- ・水戸駅北口ペDESTリアンデッキ「お休み処」に高120cm×径75cmの水府提灯を正面に3つ設置する方向で水戸市と調整している。

【産業創生部会】

- ・産業創生部会・三上部会長から説明。

○街なかビルリノベーション

- ・平成30年度にM-WORKの整備が完了し、今後は新たに作成したM-WORKの広報物を活用しながらPRを図り、利用の促進を行っていく。

○リノベーションスクール運営

- ・空き店舗ツアーを行い、出店希望者とのマッチングを図るとともに、起業に向けた支援を図っていく。

○拠点づくり

- ・マルシェの実験事業「ガングット」は、平成30年度に2回開催。今後も年2回を目安に継続して実施していきたい。
- ・M-SPO脇の小規模な芝生広場の活用も検討していく。

○街なか100円バス、コミュニティサイクル、まちなか駐車場整備、カーシェアリングによる駐車施設附置緩和

- ・独立しての実施は難しいためセットで考え一体的に取り組んでいく。

3. 審 議 事 項

- 【議案第1号】と【議案第2号】は関連であることから、議長は一括しての審議を提案。事務局が事業報告書、収支決算書について資料をもとに説明。

大橋監事が平成30年度収支決算について、証憑書類と照合した結果、適正であったことを報告。

その後、質疑応答としたが、特に質疑・意見等はなく、事業報告および収支決算は承認された。

- 【議案第3号】と【議案第4号】は関連であることから、議長は一括しての審議を提案。
事務局が事業計画および収支予算について資料をもとに説明。
その後、質疑応答としたが、特に質疑・意見等はなく、事業計画および収支予算は承認された。
以上で、予定した議案は終了。

○最後に、出席したオブザーバーの方々から意見をいただいた。

- ・国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所 飯田副所長：道路や河川を活用したイベントは今後も支援をしていきたい。
- ・茨城県産業戦略部中小企業課 薄井課長：話を伺い、水戸がお洒落なまちになっていくイメージができた。県としてはこれからも引き続き支援していきたい。
- ・水戸警察署 嶋貫地域課企画係長：高齢ドライバーの事故が増加しているので、道路を利用したイベントは十分注意してほしい。また、反社会勢力が身分を隠してイベント等に参加して可能性があるので、身分の確認はしっかりしてほしい。

【研修会】午後3時～午後3時40分

○研修会に先立ち、水戸ど真ん中再生プロジェクトの堀座長からプロジェクト全体の説明をしていただいた。

- ・以下の道筋を立て、2020年までの実現を目標にさまざまなプロジェクトを実施している。

- 1) 住民 15,000人 ⇒ 30,000人
- 2) 歩行者通行量 10万人 ⇒ 50万人（日・月2日間の総通行量の合計）
- 3) 市街地の未利用空き地、シャッター、廃墟のビルをゼロにする
- 4) テレビ・ネット・FMを融合した新たな発信メディアを作り
水戸・茨城固有の文化を創出し、発信する。
- 5) 新たな交通システムを導入し、コンパクトシティを実現。

「地方創生の魁モデル」としての先進事例となる。

- ・第1弾 Bリーグ「茨城ロボッツ」を起爆剤に新体育館のまちなか整備。
- ・第2弾 グロービス経営大学院水戸キャンパスを設立。
東京・大阪・名古屋・仙台・福岡に次ぐリアルキャンパス。
- ・第3弾 デパートが撤退し、24年間空き地だった南町自由広場にM-SPOを設置。水戸ホーリーホックと連携し、7月27日の対福岡のアウェー戦のパブリックビューイングをM-SPOで実施予定。
- ・第4弾 築60年近い雑居ビルをリノベーション、シェアオフィス&イベントスペース&カフェ。「M-WORK」を立ち上げた。
- ・第5弾 水戸が幕末から近代化に果たした役割を紐解く、英字書籍を2019年に出版予定(M-HISTORY)。
- ・第6弾 水戸の町衆の力で、伝統文化・伝統技術を使って残す(M-TRAD)。年2回会合を開き、客として水戸の伝統芸能を楽しみお金を落とすとともに、どのように伝統文化・伝統技術を残していくか検討していく。
- ・第7弾 水戸駅北口前の壁画をアートの中で特別な場所へ(M-ART)。
- ・第8弾 千波湖に臨む常磐神社・偕楽園の東に、近隣住民、水戸市民、観光客が楽しめるカフェ併設のダイニングホール「令和好文亭」を創る(M-GARDEN)。2020年7月完成予定。

- ・今後はまちなかにシェアハウスを作る取り組みや、千波湖畔に星野リゾートを立ち上げ、高級な滞在型のホテルを作る、那珂川を活用した「M-CRUISE」プロジェクトなどを検討している。

【研修会】午後3時～午後3時40分

テーマ；M-ART Mito mural project 水戸駅前壁画プロジェクトの報告

～ストリートカルチャーと現代アートの水戸における可能性について～

講師；水戸ど真ん中再生プロジェクト M-ART リーダー 磯崎 寛也 氏

○アートの力で水戸を元気に

- ・2011年の東日本大震災の以降、荒廃し続ける水戸に対して、水戸に住み、街を愛する者としてできることはないかと考え続けてきた。
- ・2016年、水戸に関わりのあるアーティスト達に声をかけ、南町の空き店舗を借りて期間限定のアートスペースを作った。それから年に2回のペースで、テーマを決めてアートコレクティブ的な活動を行ってきた。
- ・その活動を通して、街で活動するアーティストたちは、他のアーティストと交流し、作品の発表ができる常設の場を求めていると実感。水戸の街にはすでに良質な美術館が存在しているが、それを補完する意味でも、街の中にもっとオルタナティブな場所が必要と感じた。
- ・2018年、银杏坂の廃墟となっていたビルのオーナーから「ギャラリーを出さないか」と声がかかったことをきっかけに、現代アート専門ギャラリー「ARTS ISOZAKI」をオープン。
- ・1階がギャラリー、2階はアーティストの制作室、3階がコワーキングスペースで、制作、交流、発表がワンストップでできるオルタナティブなアートスペース。

○ストリートアート

- ・ストリートアートはグラフィティと呼ばれることもあり、1970年代のニューヨークで始まった比較的新しい美術。
- ・2005年、水戸芸術館の展覧会「X-COLOR/グラフィティ in Japan」が開催され、世界中で話題になった。
- ・その際、まちなかの壁が屋外の巨大なキャンパスになり、多くのアーティストが、それぞれのスタイルで、街にストリートアートを描き、今も一部残っていて、街のシンボルとなっている。

○M-ART プロジェクト

- ・M-ART は水戸を現代アートの力でクリエイティブに再生していくことを目指した「水戸市ど真ん中再生プロジェクト」の第7弾プロジェクト。
- ・水戸駅北口にあるビル解体後の残骸の壁にストリートアーティストが壁画を描くというもの。
- ・クラウドファンディングを活用して379万円を集め、制作費用に充てた。
- ・制作はKAMIさんとSASUさんによる制作ユニット「HITOTZUKI (ヒトツキ)」が担当。
- ・4月29日から制作を始め、5月13日に縦約8メートル、横約55メートルの壁画が完成。
- ・テーマは「LUCK」。徳川光圀の「苦は楽の種、楽は苦の種と知るべし」という言葉から「楽」「苦」＝「LUCK」と発想を得た。

以 上